

ピオーネのホルモン処理と房づくり

1回目のジベレリン処理(無核化処理)が終わると、数日で結実が確認できるようになります。ピオーネの着果量制限や房づくりは、2回目のジベレリン(またはフルメット)処理までに行うと、果粒肥大促進や省力化に効果的です。

ニューピオーネは大粒・種なし・高糖度の紫黒色のブドウですが、着果量が多いと糖度や着色が不良になります。ピオーネ本来の果粒肥大、着色、糖度に仕上げるために、結果量制限、摘粒を適正に行いましょう。

1 花穂の切り込み

- ・開花直前～開花期にかけて、花穂先端の長さが3～3.5cmになるように切り込みます。
- ・花穂先端部の花蕾が少ない場合は、やや上段(基部寄り)を残しておきましょう。
- ・花穂先端部の花蕾が少ない場合は、やや上段(基部寄り)を残しておきましょう。
- ・早めに切り込む場合にはやや小さくしておきましょう。

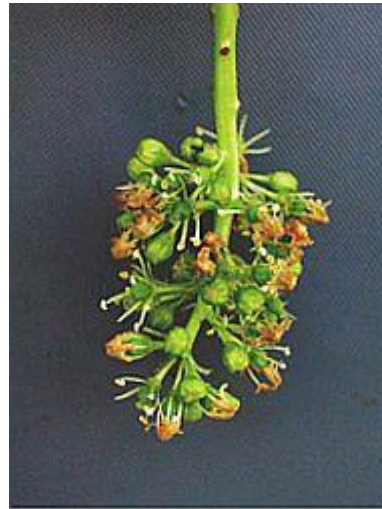


図1 花穂切り込み

2 ホルモン処理

(1)1回目ジベレリン処理(種なし処理)

- 【時期】全ての蕾が開花した日～3日以内
- 【濃度】ジベレリン 25ppm(50mg/2ℓ)液を果房に浸漬
(曇天が続く場合はフルメット 2.5ppm(5ml/2ℓ)程度を混用)
- 【方法】すぐに乾かないように、夕方に実施します。

(2)2回目ジベレリン処理(果粒肥大処理)

- 【時期】1回目ジベレリン処理の10～15日後
- 【濃度】ジベレリン 25ppm(50mg/2ℓ)液またはフルメット5ppm(10ml/2ℓ)液を果房に浸漬します。
- 【方法】乾きやすいように晴天日の午前中に実施します。
- ・余分に着いた薬液は2～3回ふるい落とします。



図2 1回目ジベレリン処理適期

3 房づくり

表1 最終着果量の目安

・500～600g(2kg箱で4(～5)房詰め)を基準に房づくりを行います。

	着果量 (kg)	房数
10a当たり	1,500	2,700
1㎡当たり	1.5	2.7

(1)1回目の摘房

- ・1回目ジベレリン処理の4～5日後から開始しましょう。
- ・摘粒前にまず摘房を行い、最終着果量(表1)の2割増し程度に制限します。
- ・房形の悪い房、着粒の多すぎる房を優先的に落としましょう。
- ・葉色が薄く開花後の新梢伸長が弱い樹や、葉面積の少ない樹は、摘房を早めに行い、着房数も少なめにしましょう。

(2)1回目の房づくり

- ・摘粒の前に、房の上部(肩)と下部(先端)を決めましょう。
- ・肩は小花穂が2～3段揃った位置とし、先端も小花穂が揃った位置で決定します。
- ・房の軸長は、2回目ホルモン処理時点で5～6cmとなるようにします。
- ・房の中間部の、内側に入り込んだ粒を主体に摘粒し、40粒程度にしましょう。

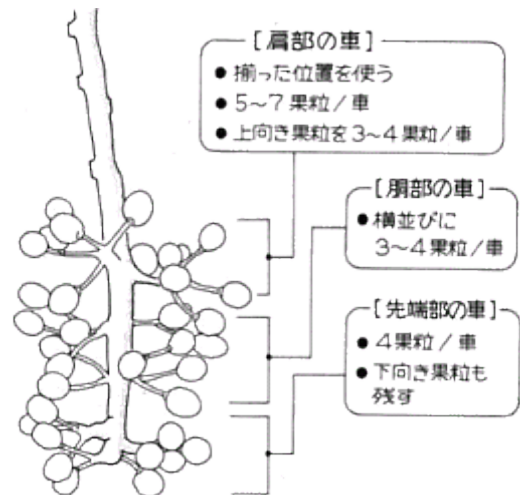
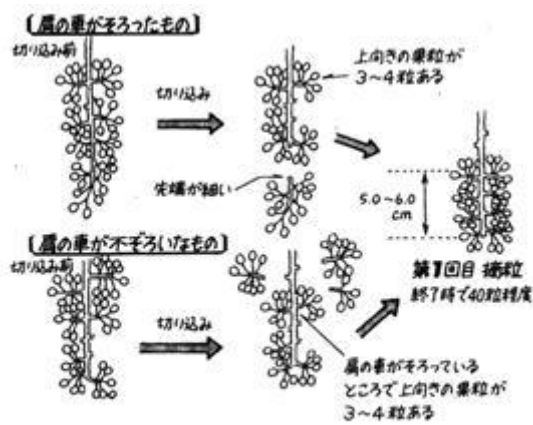


図3 ピオーネの摘粒例

拡大図

(注)左上図では中間の粒を省略しています(除去するものではありません)。

(3)2回目(最終)の摘房と房づくり

- ・果粒軟化期 10 日～2週間前頃に、最終着果量に制限しましょう。
- ・果粒の混み具合を確認しながら、35～40 粒に摘粒しましょう。
- ・果粒が表面に整然と並ぶように、粒を並び替えましょう(玉直し)。

4 新梢管理

- ・新梢が盛んに伸長している樹は、副梢の摘心、ねん枝、枝の引き下げを行きましょう。
- ・副梢は着房節～基部寄りの節は2～3枚程度、これより先の節は1枚程度で摘心し、先端は数枚を残して摘心しましょう。

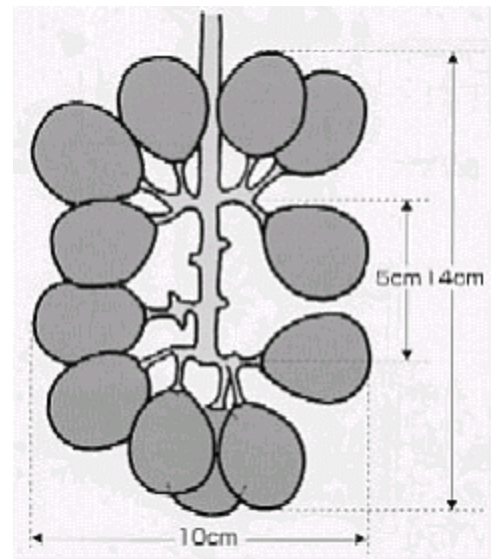


図4 目標の房型

5 病虫害防除

- ・6月は気温と湿度がともに高くなり、病虫害が発生しやすくなります。
- ・灰色かび病、晩腐病、うどんこ病、スリップス、ダニ類の防除を徹底しましょう。

[\(戻る\)](#)